お母さんの声

　謹慎期間中の家庭訪問の時だ。やさしく微笑んだ一枚の写真が仏壇に飾られていた。

「お母さん？」

「はい」

　学校では見たことのない穏やかな表情と素直な返事。君がどんなにお母さんを好きだったかがわかった。その瞬間、写真のお母さんの小さな声が私に聞こえた。

「うちの子どもも大切にしてくださいな。いい子なのですから」

　未熟な新米教師だった私は、君の自由気ままな言動にいつもふりまわされ、大事なことを忘れていた。子どもをまるごと受け止めるという当たり前のことを。

　小学生の時亡くなったお母さんはずっと君のことを見守っていたんだね。とても大切なことを教えてもらった、忘れられない日だ。

　十七年後、クラス会で会った君は三人の子のいい父親になっていた。うれしかったよ。

応募時（青森県62歳）内丸節子

（ペンネーム）